

市川秀男 piano
城戸夕果 flute
沢田穰治 contrabass

2023 07月15日 (土)
開場 19:30 night live
開演 20:00
(2ステージ入替無) (1drink=600)
MC=3700+2drinks order

CAFE BEULMANS

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail : info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



城戸夕果

洗足学園大学在学中にジャズ・フュージョン系の音楽家として活動開始。89年、小野リサのバンドに入りブラジル音楽に目覚める。90年代は毎年リオに長期滞在し、複数のリーダー作を録音。ジョニー・アルフ、ジョアン・ドナート、カルロス・リラ、ジョイス・モレーノらと共演した。日本では自身のバンドでの活動のほか、宮沢和史、EPO、渡辺香津美らと共演。21世紀に入り、外交官夫人としてブリュッセル、ブラジル、ボストンに在住。現地で音楽活動も行ない、2020年に帰国。ブラジル音楽を軸にジャズなどの素養、海外での多彩な経験も生かして活動中。

市川秀男

1945年2月22日 静岡県生まれ。国立音大附属高校作曲科出身。1954年自己のピアノトリオを結成し、66年秋から72年までジョージ大塚トリオに参加。数々のオリジナルを発表しフレッシュな感覚のピアニストとして脚光を浴びる。その演奏はジョージ大塚のページ1、ページ2、ページ3、シーブリーズ等に代表される。日野皓正グループ、宮沢昭、松本英彦とも共演し素晴らしいレコードも残されている。以後、こんにちまでに自己のトリオ率いて活動。その他にジョージ川口ニュービッグ4をはじめ、鈴木勲、富樫雅彦とのトリオ「トリニティ」に参加、内外の一流プレイヤー達と共演。来日したミュージシャンとの共演はベニー・カーター、フレディ・ハバード (tp)、テレンス・ブランチャード (tp)、デクスター・ゴードン (tsax)、エディ・ゴメス (b)、ロン・カーター (b)、ルーファス・リード (b)、スティーブ・ガッド (ds) アート・ブレイキー (ds)、エルビン・ジョーンズ (ds)、ジョージ・デューク (pf) 等数多くのリーダーアルバムを発表し、日本のジャズシーンに、不動の地位を築き上げた。ライブ・コンサート活動の他、コンポーザー、アレンジャーとしても活躍している

沢田穰治

ChoroClubのベーシストでありながら、様々な楽器を愉しむ。その活動は幅広く、ジャンルにとらわれない活動を続けながら様々なアーティストのプロデュースや映画、アニメ、ドラマなどの音楽制作なども多い。近年の作品にはアントニオ・カルロス・ジョビンの作品集「Canta Jobim」、2011年の震災を受け止めて音楽として昇華した「NO NUKES JAZZ ORCHESTRA」、「武満徹ソングブック」等、最近ではジャズギタリスト馬場孝喜「Gray Zone」、日本初録音となるジョージ・クラム作曲『マクロコスモス II』や畠山美由紀「歌で逢いましょう」などをプロデュース。アレンジャーとして今までおたか静流、川本真琴、フィッシュマンズ、忌野清志郎、太田裕美、バッファロー・ロードター、上間綾乃、松下奈緒などほか、多数手がける。活動においてはアルゼンチンやブラジルの音楽家からの信頼もあつく、レコーディングやセッションを重ねている。直近でのリリースでは高木正勝、渡辺亮、馬場孝喜など京都ゆかりの音楽家と共に制作した「Closeness Ensemble of Kyoto / WaBaSaTa」が song x jazz からリリース。